

産地戦略

実施主体 香川県中讃農業改良普及協議会
 都道府県 香川県
 対象地域 丸亀市、坂出市、善通寺市、宇多津町、綾川町、琴平町、多度津町、まんのう町
 対象品目 水稲



実施期間 令和5～6年度

新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	● 温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

近年、農業者の高齢化や経営規模の大規模化に伴い、水稲栽培管理の省力化につながる肥効調節型肥料の使用割合が増加しており、また、化学合成農薬に頼った雑草・病害虫防除が定着しているため、生産資材価格の高騰による生産費の増加や持続可能な農業生産に向けた環境への負荷低減が課題となっている。

実証により知見の得られた「低コストで環境負荷低減に資する栽培技術」の導入により、持続可能な主食用米の生産振興を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		田植 基肥 初期除草		中期除草	出穂 収穫								
技術名		肥効調節型肥料 除草剤		除草剤									プラスチック被覆肥料 化学合成農薬

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	堆肥散布	田植 基肥 初期除草		中期除草 穂肥	出穂 収穫								
技術名	堆肥散布機	化成肥料 乗用除草機等		除草剤 局所施肥									堆肥散布機を活用した牛ふん堆肥施用 非プラスチック被覆肥料 自動抑草ロボット・乗用除草機 化学合成農薬 ドローンセンシングに基づく局所施肥

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	3,652	▶ 3,652	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.71	▶ 1.3	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0.71	▶ 1.3	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0.71	▶ 1.3	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	肥効調節型肥料又は化学肥料のみの施肥	牛ふん堆肥の活用による化学肥料（基肥）使用量の低減	化学肥料の使用量の低減 プラスチック被覆肥料の使用量の低減
環境 省力	肥効調節型肥料又は化学肥料のみの施肥	ドローンセンシングによる穂肥診断と化学肥料低減に向けた局所施肥	化学肥料の使用量の低減 プラスチック被覆肥料の使用量の低減 追肥体系栽培での追肥作業時間の短縮
環境 省力	化学農薬のみの雑草防除	自動抑草ロボット、乗用除草機による雑草発生抑制	化学農薬の使用回数の削減 無農薬栽培時の除草作業時間の短縮

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学肥料のN成分施肥量（％）	100	▶ 70	慣行施肥量から30％削減
環境 省力	化学農薬（除草剤）の使用回数（回）	2	▶ 1	除草剤使用回数（初期除草剤）の削減

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

導入マニュアルを活用し、水稻栽培講習会や集落営農組織等の勉強会等で技術の普及・定着を図る。

関係者の役割

関係者名	香川県中讃農業改良普及センター	J A 香川県中讃営農センター	管内各市町	
役割	栽培講習会や各種勉強会での導入マニュアル技術の紹介	導入マニュアル技術の「水稻栽培しおり」への掲載検討	導入マニュアル技術の導入支援	

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

その他